

長崎県の海藻 (対馬市)



西日本オーシャンリサーチ

JF 全漁連

※この資料の著作権は西日本オーシャンリサーチに帰属します。
無断転載は禁止します。

対馬で見られる大型海藻種



(写真提供:対馬水産業普及指導センター 2016.5)

アラメ

形態	カジメとの違いは葉に皺が多く、茎の先端が二又になる
成熟期	秋～初冬
その他	大型海中林を形成する 有用海藻種 対馬各地で見られたが、近年激減している



(写真提供:対馬水産業普及指導センター 2016.5)

アラメとの混生

カジメ

特徴	アラメより深所に生育する
成熟期	秋～初冬
その他	アワビ・サザエの餌に最適 アラメと同様、大型藻場を形成する多年藻(4～6年) 母藻を確保し、群落再生が望まれる種のひとつ



ワカメ

形態	葉の中央部には中肋と呼ばれる筋がある
成熟期	北日本では夏、西日本では春
分布	沖縄県を除く全国各地
その他	海藻の王様とも言われ各地で養殖が盛んに行われている 葉、茎、めかぶともに美味



アオワカメ

形態	最大3m程にも成長する
分布	かつて鰐浦地区に濃密群落があったが、現在消滅した模様
その他	ワカメに比べ生育区域が局所的であるため、ほとんど流通していない

対馬で見られるホンダワラ科藻類



ノギリモク

形態	付着器は円錐状、主枝は2～3稜形となる 気胞は球～楕円形
成熟期	対馬では夏
分布	鰐浦、豊、塩浜、美津島地区に生育
その他	大型藻場を形成する多年草(7～8年)



アカモク

形態	付着器は仮盤状で、主枝を持たない 茎には縦の筋がある 葉は切れ込みが深い 気胞は円筒状で長く、頂端に冠葉がある 生殖器床は大きく、受精卵は肉眼で見える
成熟期	冬～春 成熟時期が長く、各地で差がある
その他	全国各地で盛んに取り上げられ、利用価値が高くなっている

アカモクの生態



雄株



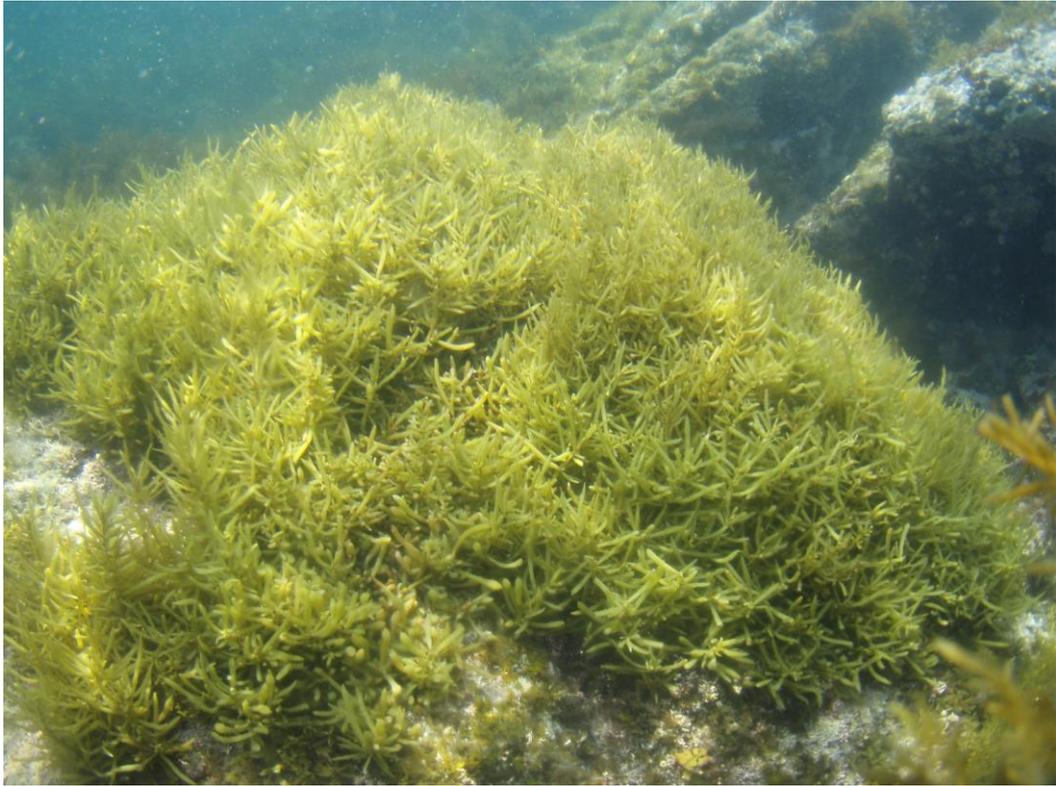
雌株(受精卵)



幼体



大陸由来の流れ藻 (巖原町上槻)



ヒジキ

形態	付着器は繊維状で、主枝は円柱状 気胞は紡錘形
成熟期	春
分布	対馬各地
その他	もともと浅場に生育する 食害を受けやすい種 食用種



ヤナギモク

形態	付着器は円錐状で、主枝は2稜形 気胞は楕円形で線形の冠葉・翼をもつ
成熟期	秋
その他	もともと食害を受けやすい種類のひとつ 塩浜地区では絶滅の可能性大



タマハキモク

形態	付着器は盤状 気胞は球形～倒卵形
成熟期	冬～初夏
分布	塩浜地区
その他	波当たりが弱い浅場に生育する 雌雄同株



ヨレモク

形態	付着器は円錐状で主枝は2～3稜形 気胞は倒卵形～楕円形(先端部は紡錘形)
成熟期	春～初夏 豊地区、塩浜地区では5月に成熟が見られた
分布	豊地区、塩浜地区



ヤツマタモク

形態	付着器は盤状で主枝は平たい2稜形 気胞は卵形～倒卵形で冠葉が発達する 地域・環境により形態に差がある
成熟期	春～初夏 豊地区、塩浜地区では5月に成熟が見られた
分布	塩浜地区 5月に幼体が見られた
その他	大型藻場を形成する種 全国各地に広く分布



マメタワラ

形態	付着器は盤状 主枝は扁平で茎は円柱状 気胞は球形 地域・環境により形態に差がある
成熟期	初夏
分布	塩浜地区
その他	大型藻場を形成する種 北海道を除く日本各地



ウスバノコギリモク

形態	付着器は盤状で主枝は2稜形 気胞は球～楕円形で冠葉がある
成熟期	春～初夏
分布	美津島地区
その他	深所まで生育が見られる 類似種:ヨレモクモドキ ノコギリモク



キレバモクの近縁種

形態	付着器は盤状 気胞は球形 主枝:キレバモクの断面は円形で棘が密生するが、近縁種のフクレミモクは扁平し棘は少ない
成熟期	夏
分布	美津島地区の外湾
その他	越年した茎から主枝・葉が伸びる多年藻 雌雄同株



イソモク

形態	付着器は繊維状で主枝は丸みのある3稜形 気胞は楕円～洋梨型
成熟期	春～夏
分布	塩浜地区、豊地区
その他	浅場に生育する種 塩浜地区では食害に遭っていた



ウミトラノオ

形態	付着器は平たい盤状で主枝はやや角ばる 気胞は紡錘形
成熟期	春～初夏
分布	塩浜地区、豊地区
その他	浅場に生育する(ヒジキと同じかやや下) 多年藻 塩浜地区では食害に遭っていた

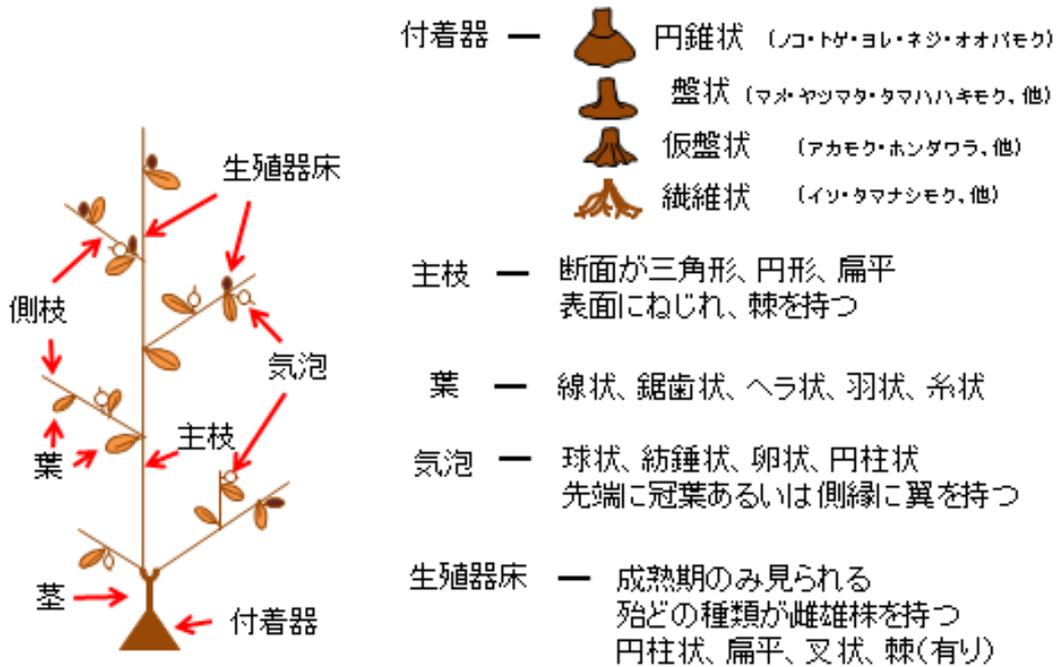
コンブ科海藻類の見分け方



<写真提供>

田所悟、永田昭廣、山本貴史、南里海児(敬称略)

モクの種類の見分け方



出典: 西日本オーシャンリサーチ